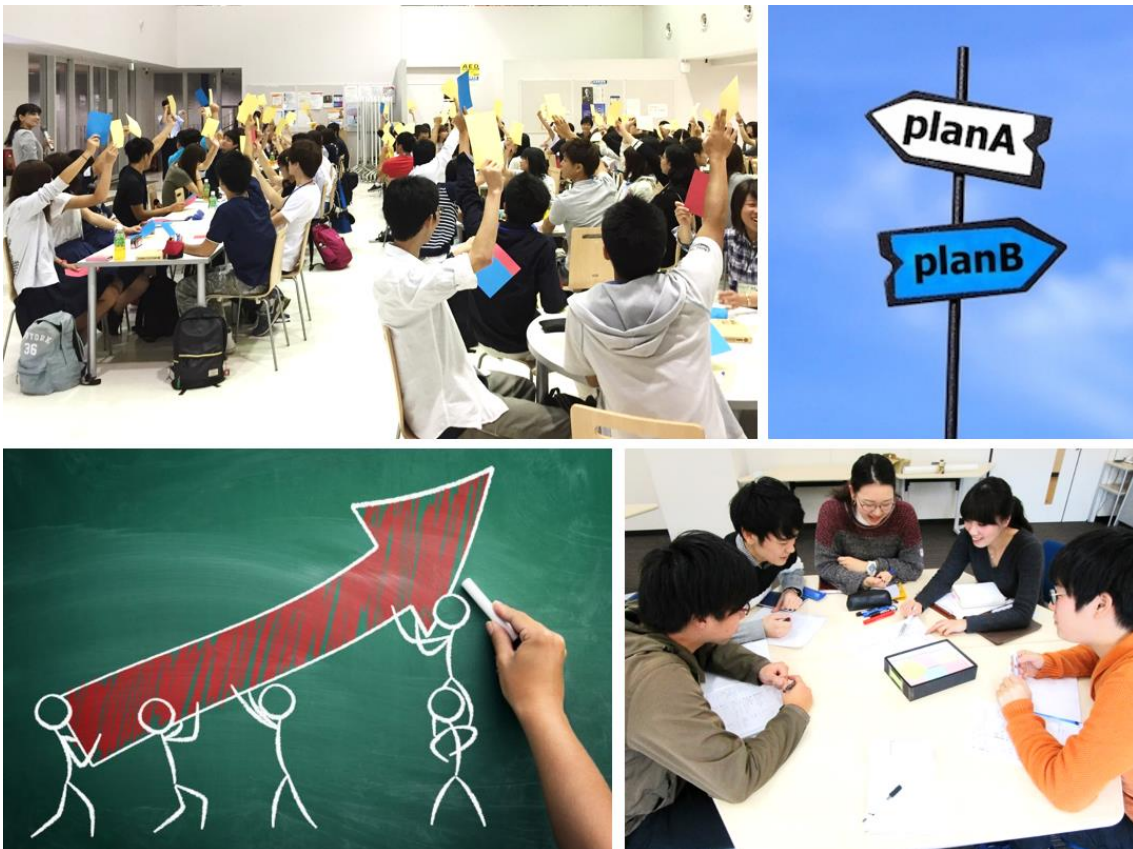


# Teaching Portfolio

## 2019



第22回 佐賀大学・第9回 福岡工業大学  
ティーチング・ポートフォリオ・作成ワークショップ  
2019年3月7日(木)～9日(土)

福岡工業大学 FD 推進機構  
宮本 知加子  
c-miyamoto@fit.ac.jp

## 目次

1. 教育の責任 .....	1
2. 教育の理念 .....	3
3. 教育の方法 .....	3
4. 教育の成果・評価 .....	6
5. 教育に関する受賞 .....	9
6. 授業科目に関連した教材開発 .....	10
7. 指導力向上のための取り組み .....	10
7.1.研修の受講 .....	10
7.2.学外を中心とした活動 .....	10
7.3.学内を中心とした活動 .....	10
7.4.専門分野での能力維持 .....	11
8. 今後の目標 .....	11
8.1.短期的な目標 .....	11
8.2.長期的な目標 .....	11
9. 添付資料・参考資料 .....	12

## 1. 教育の責任

私は、福岡工業大学の FD 推進機構において、就業力育成科目を担当している。本学では、自律的に考え、行動し、社会で活躍することのできる「実践型人材」の育成を目指している。私が担当する「キャリア形成」(1 年前期)「コミュニケーション基礎」(1 年後期)は、就業力育成プログラムの初年次必修科目として位置付けられている科目であり、自分と将来目標や他者との関わりを結びつけるための科目であるとも言える。

就業力育成科目では、社会人として社会に出ていく前に、社会で生き抜いていくための力(人と協働する・助けてもらうためのスキル、目標をもって継続的に実行するスキル)を身に付けるための学習基盤を作ることが重要である。なぜなら、社会に出てからは「正解のない課題」が待ち受けており、ひとりで解決できないことや、他者と協働する中で答えを導き出すことが求められているからである。課題を解決するためのプロセスやそのアプローチの方法を多く取り入れ、社会に出てからも実行できるようになることが必要である。

また、就業力育成科目では、就職活動のことを意識して学習を進めなければならない。キャリアの考え方は決して就職のみを指す訳ではなく、生涯を通じて考えていくべきものであるが、学生にとっての就職活動は大きな関心事であり、モチベーションの源でもある。したがって、現在の学習が仕事や就職にどのように繋がっているのかを理解させ、目標をもって取り組む経験をさせたい。その際、学生にとって身近な学習者モデルは、彼らの先輩である。憧れとなるような学習者モデル(先輩)を育成し、その姿を見せることは、学習の一部である。したがって、1 年次の学習がその後どのように繋がっていくのかを、目の前の先輩を通して示していきたい。

以下に、担当科目を列挙する。各科目の内容については、各科目のシラバス(添付資料 1)に示している。

### ●担当科目

科目名	対象学年	種別・特徴・期間	開講年度・学期	受講者数
キャリア形成	1	必修・教養・半期	2012～・前期	60～80 人×5 クラス/年
コミュニケーション基礎	1	必修・教養・半期	2012～・後期	40～70 人×5 クラス/年
就業実習	2～3	選択・教養・集中	2014～・前期	100 人/年

※就業実習は、2018 年度入学生からの新カリキュラムでは「インターンシップ I」、「インターンシップ II」となる。

●以前担当した科目（現在はカリキュラムにない科目）

科目名	対象学年	種別・特徴・期間	開講年度・学期	受講者数
プレゼンテーション	2	必修・専門・半期 2013年から選択	2010～2012・前期	30名程度／年
コミュニケーション論Ⅰ	1	必修・専門・半期	2011・前期	30名程度／年
コミュニケーション論Ⅱ	1	必修・専門・半期	2010～2011・後期	30名程度／年

上記以外にも、大学教育再生加速プログラム事業の1部であるアクティブラーニング型授業を促進するための「クラスサポーター（CS）の育成」や、1年次前期必修科目「キャリア形成」の発展版に位置付けている「アドバンスト・プログラム」、入学生のためのオリエンテーション「FIT in セミナー」における教養教育の教員が実施する「ワークショップ」の講義設計から実施までを行っている。詳細は以下の通りである。

■クラスサポーター（CS）育成：H24年度から毎年合宿を実施。受講者数は40人程度。

CSは、担当科目において、AL型授業の円滑な運営のためにグループ学習やピア・ラーニングのファシリテートや助言、ICT機器操作の補助および資料の整理などの業務補助を科目担当教員の監督の下に行う。この取り組みは、AL型授業の効率化を図るとともに、CS自身の学習深化にも繋げている。

CSの事前研修として、CS合宿（1泊2日、2～3月実施）を企画・運営している。CS合宿では、①アクティブラーニングとは何かについて理解する、②CSの仕事内容や求められる役割について理解する、③ファシリテーターとしての心構えを身につける、ことを目的に実施している。やむを得ず、合宿を欠席した学生には研修内容を収録した授業アーカイブを視聴した上で臨むよう指導している。（添付資料2-1）

■アドバンスト・プログラムの実施（1年次夏季休業中に実施）：H25-28, H30。

キャリア形成（1年次前期必修）の発展版として位置づけられた本プログラムでは、「社会」に対する認識や理解を深めるための学びの場を「学内」から「学外」へと広げている。具体的には、「企業訪問」と「学生交流」という2つの体験学習を柱とした事前事後学習を通じて、「社会」に対するより現実的な理解を深めると共に、幅広い他者との意見交換を通じて、ものの見方・考え方を広げる。「自己の将来」や「大学での学び」について考えるプログラムである。（添付資料3-1）

【本プログラムでの到達目標】

1. 企業訪問に必要な一連の手続きやマナー指導を通じて、「礼儀とマナーがなぜ重要か」を理解し、口頭及び文章で説明できる。

2. 企業訪問および事前・事後学習での企業研究を通じて、「あるべき人材像」について、2つ以上の観点から口頭及び文章で説明できる。
3. 教職員や企業人が適切と認めうるレベルで、自主的に挨拶及び返事ができる。
4. 議論やプレゼンテーションを通じて、企業人や他者と意見交換ができる。
5. 自己のキャリアデザインを再検討し、今後の大学生活における具体的な目標を再設定できる。

## 2. 教育の理念

福岡工業大学に入学してくる学生の多くは、素直でおとなしい学生が多い。学習に対しては、不本意入学のために斜に構えている学生や、そもそも学習に対する苦手意識から、学習しないといけないという気持ちがあっても、積極的にはできていない学生が多く見られる。そのため、全体的に自信が持てない学生が多いように見える。本学は「面倒見がよい大学」と言われているが、学生自らがその面倒見の良さを当てにして入学してきたことを言うことがあるほど、面倒を見てもらいたい、あるいは、見てもらわないと自分ひとりでは不安であるという学生が多いようである。またそのような受動的な姿勢からか、「〇〇能力が必要だ」と聞けば、「〇〇能力」と連呼するようになり、「本当にそうなのだろうか？」と自分の頭で検討しないまま信じ込んでいる場合もある。しかし、今後社会に出て、自分の力で生きていくことを考えると、他者の言っていることをそのまま鵜呑みにして実行していくわけにはいかない。なぜなら、時には間違った情報かもしれないし、立場によってその重要性や価値は変化するからである。自分にとっての価値を自分で見出すような判断力とそれを実現するための実行力は、自分で兼ね備えておかなければならない。相手から与えられたもので判断するのではなく、自分から取りに行くという姿勢が必要ではなかろうか。さらに、その情報をもとに、検討し自分に何ができるのかということを検討できるようになってほしい。その時の状況や立場によってできる範囲は限られているとしても、自分の人生の舵を切るのは、常に自分であってほしいからである。

そこで、私の教育の理念・目的は、「自分の可能性を自分で広げられる人材を育成する」こととしている。ただし、ここで言う「可能性を広げる」ということは、汎用的能力を高めることと、自分で考え行動を起こすことである。

## 3. 教育の方法

「自分の可能性を自分で広げられる人材の育成」は、1科目でできるものではなく、大学4年間のすべての単位、さらには課外活動までもを含み、実践していくものであると考えている。ただし、初年次において、その基盤となる行動様式や風土を醸成することは、その後の学習する姿勢に影響を与えるため、すべての学生において実行できるものにしなければならない。ここで言うすべての学生とは、合理的配慮の必要な学生やコミュニケーションや

グループ活動に苦手さを感じる学生のことである。

コミュニケーションに苦手さを持っている学生は、集団の中での活動に不安や緊張感を持ったまま参加していることが多い。周りの人と一緒に「できる」、「できた」という体験は、今後の活動を左右する成功体験となり得る。そこで、すべての学生に、自分にも「できる」、「できた」という成功体験を持たせることが、授業の成果を高めるベースとなると考え、授業時間 90 分を構造化し、スモールステップで、学習するメンバーに変化を持たせながら進められるようにしている。

#### 【授業中での成功体験を積むための工夫】

##### ■スモールステップ

個人⇒ペア⇒グループ⇒全体と、演習のサイズを少しずつ大きくしながら進めるようにしている。小さいサイズから取り組むことによって準備や練習となり、授業中の成功体験を積むことができるようにしている。

##### ■講義 90 分の構造化

構造化とは、何をどれくらいの量やるのか、いつ終わるのか、次に何をするのかを分かりやすく示す方法のことを言う。私の授業では、前回の振り返り⇒席替え⇒講義（説明）⇒個人演習⇒グループ演習といったように、毎回の流れを構造化している。（科目ごとに多少流れは異なる）。構造化することによって、次に何を行えばいいのかが明確になるため、学生が自分をコントロールしながら課題を達成することができるようになる。

##### ■メンバーの構成

毎回の授業で席替えを行うことにより、もともとは知らないメンバーと協働しなければならない場面ができる。そこで他者に認められ一緒に学習を進めることができると、学生は自信を持つことができる。

次に、「可能性を広げる」とは、汎用的能力（他者と協働して物事を進めることができる力）を持ち、自分で考え行動を起こす（アクションを起こす）ことだとすると、社会人として必要なスキルを身に付けるために、自分にとってどのような経験が必要で、あるいは、自らの興味関心があることに対して、向かっていく行動力を持つことが重要である。

このアクションには、短期的意味と長期的な意味が含まれる。短期的な意味は、日常的な積み重ねができるようなアクションのことである。「自分から発言する」、「役割を引き受ける」、「近い目標を立てて実行する」など、自分が日々の生活の中でできることを意味する。一方で、長期的な意味とは、将来を見据えて目標を立てて、継続的に行うアクションのことである。しかしながら、長期的なアクションを起こすといっても、すぐに将来の道筋を決め、目標が立てられるものではない。したがって、長期的なアクションを起こすことができるようになるために、将来について見据えながら「社会」や「自分」について知ることと、多様な価値観に気づき、選択肢を広げることが必要である。そこで、授業では、汎用的能力を高

めるような活動の中に、様々な価値観に触れ、興味関心を広げられるようなテーマを用意し、社会や自己への気づきが得られるような指導を心掛けている。そして、まずは授業内で短期的なアクションを実践し、長期的なアクションを起こすことができるようになっていけるよう組み立てている。

また、自分の能力を試す場としても「就業実習」（インターンシップ）は活用できる。自分の関心に応じた業界や企業、あるいは、課題解決型インターンシップのように課題解決のプロセスを経験することで、自分に足りない能力にも気づくことができるだろう。大学と社会とを繋ぐ場となりえる。

#### ■授業内のワークとそのねらい

方法	汎用的能力の向上	興味関心の幅の伸張
積極的傾聴	「聴く」ことを通して、コミュニケーションがスムーズになることを学び、「積極的傾聴」を実践できるようになる。	コミュニケーションについての関心を高める。 相手の学習目標を聴き、学習という概念の幅を広げる。
ジグゾー学習	調べ学習を通して、情報収集やそのまとめ方を学ぶ。他者へ説明すること、1つのテーマについて議論をすること、考えを発表することを学ぶ。グループディスカッションにおいての役割を学び、メンバーとして貢献できるようになる。	テクノロジーの変化と働き方、労働環境、非正規雇用、女性の社会進出など、仕事や働き方に関する資料をもとに、現状を知り、どのような働き方があるのか、自分の関心は、どのようなところにあるのかを知る。また、他者とのディスカッションを通して、異なる価値観に触れる。
研究室訪問	メールの書き方、社会人としてのマナー、傾聴、質問するスキルを高める。	研究室で行われている研究について教わることによって、研究に対するイメージや、専門分野がどのように社会に役立っているのかを学ぶ。
キャリアデザイン	キャリアを仕事として捉えるのではなく、人生そのものとして捉え、自分がどのような価値観や能力を持っているかを自覚する。 目標のたてかたを学ぶ。	他者の考えを聴くことによって、自分の関心がわかる。さらに、他の選択肢を知ることができる。
ディベート	分かりやすく伝える技術や、反論のスキル、まとめるスキルが身に	テーマを変化させることによって、テーマ自体を調べることで興

	付き、議論に活かす力を学ぶことができる。賛成側と反対側の両方を考えることによって、立場の違う人の考えを想像することができるようになる。	味の幅を広げることができる。
インターンシップ	就業意識を醸成し、仕事に必要な社会人としてのスキルを実践的に身に付ける。	社会人の仕事に対する考え方や、やりがいを学ぶ。社会における仕事の意味や貢献を学ぶ。

#### ■学生に求めること

- ・「まず行動を起こしてみる」という習慣をつけてほしい。行動することによってすべてができるという意味ではなく、できないことは他者に尋ねたり、助けてもらうようお願いするなど、学習を進めるための改善策を考えてほしい。
- ・他者と協働して、物事を解決することのできる能力を身に付けてほしい。一人でできる範囲は限られている。他者を助けたり助けられたりしながら、物事を進めていくということを学んでほしい。
- ・他者の関心や価値観を否定しないでほしい。多様な関心や価値観があるのが社会である。
- ・小さなことでも、人の役に立つことを実行してほしい。グループのため、クラスのため、学びの中でできることはたくさんある。
- ・発言は自分からしてほしい。人を当てにせず、自分ができることを考えてほしい。

#### ■自分に求めること

- ・学生の意見に耳を傾け続けること。時代の影響や大学のレベルによっても、学生の特徴は変わってくる。常に、主体となる学生について観察し続け、学生の意見を取り入れたもの（授業中のワークなど）を作り続ける。その記録を取っておく。
- ・学生同士の繋ぎ役となるような存在になること。
- ・自分が挑戦を忘れないこと。
- ・学生にとっての逃げ道は用意しておくこと。
- ・研究結果を伝えること。心理学の知識は関心のある学生は多いはず。
- ・取り組みを自分で発信すること。論文はもちろん、リーフレットなども自分で作成し、発信する。

## 4. 教育の成果・評価

「キャリア形成」授業実践によって、その授業前後を比較すると、「志向する力」、「共働する力」に対する教育効果が得られたことを示している（添付資料4）。



2019年度前期の授業評価アンケートの結果を以下の表に示す（添付資料5-1）。各項目のスコアは、4点満点（1～4点）である。各項目ともすべてのクラスで3以上のスコアとなっており、自主的かつ意欲をもって取り組んだことや授業の意義を感じていることがわかる。主な自由記述を以下に示す。他者との共同作業に不安を抱えていた学生も、授業を通して他者と共に共働して学びを深める経験ができています。また、普段深く考えていない話題や物事を違う視点で見ると面白さを感じることができており、そのような体験からも、授業を意義あるものとスコアが高くなっている要因であると考えています。

科目	回答率	この授業において自主的かつ意欲をもって学習に取り組むことができましたか。	この授業の内容は全体として意義あるものでしたか。
キャリア形成 (電子)	85.7%	3.15	3.39
キャリア形成 (知能機械)	57.1%	3.35	3.50
キャリア形成 (通信)	88.0%	3.27	3.61
キャリア形成 (情報システム)	80.6%	3.38	3.44
キャリア形成 (シスマネ)	86.9%	3.85	3.53

・あまり意見や発表ができない性格なので、自分にディスカッションや発表できるのかと不安になっていましたが、テーマや役割分担が決まっており、話し合いをする中で自分の意見をしっかりと伝えるようになりました。また、この授業の中で同じグループの人について知ることができ、話せる友達が増えました。また授業を通して自分がどのように将来仕事についていくのかといったことや、大学生活に役立つことを実際的に話し合いで理解することができたので、これからの大学生活や就職活動で学んだことを活かしていきたいと思います。ありがとうございました。

【キャリア形成（通信）】

・この講義を通してクラスの人たちとコミュニケーションをとることができました。レポートも積極的に取り組むことができたので良かったと思います。

【キャリア形成（通信）】

・いろんな人と同じグループになる機会があったので知り合いも増えましたし、何より将来のことを考えたり、時事問題、ニュースについて考えたりと普段深く考えるのを避けてきた話題について考える機会もいただけたのでとてもいい時間になりました。ありがとうございました

いました。

【キャリア形成（システム）】

・たくさんの人と話せて、物事を違う角度から見ることができた。とても良い経験になった。

【キャリア形成（システム）】

・これから私たちが必要とされる能力やグループワークの積極性の重要性を学ぶことができて良かった。先輩との交流やマナー講習もあり意義のある授業だったと思います。

【キャリア形成（シスマネ）】

次に、2019年度後期の授業評価アンケートの結果を以下の表に示す（添付資料5-2）。各項目のスコアは、4点満点（1～4点）である。すべてのクラスで3以上のスコアとなっており、自主的かつ意欲をもって取り組んだことや授業の意義を感じていることがわかる。

以下に、主な学生の授業評価アンケートの自由記述を示す。人前で話すことの苦手さを感じている学生も授業の中でできるようになった実感を持つことができている。特にこの授業では発言をしなければならないことに苦手意識がある学生にとっては、ハードルの高いものだと考えるが、その分、できた時の成功体験も持ちやすい。スモールステップで進めていくため、自分のできるようになったという実感も持ちやすいため、スコアも高くなっていると考えている。

科目	回答率	この授業において自主的かつ意欲をもって学習に取り組むことができましたか。	この授業の内容は全体として意義あるものでしたか。
コミュニケーション基礎（電子）	55.3%	3.19	3.09
コミュニケーション基礎（知能機械）	47.8%	3.21	3.30
コミュニケーション基礎（通信）	51.9%	3.22	3.51
コミュニケーション基礎（情報システム）	33.3%	3.00	3.25
コミュニケーション基礎（シスマネ）	41.6%	3.53	3.46

- 授業が始まったばかりの頃ともうすぐ終わるこの頃を比較して比べると、議題を論理的に考えることができ、相手側の意見の尊重など、話し合いで大切な部分を学べたと思う。

【コミュニケーション基礎（情報通信）】

- 自分の意見をまとめる力がついたら実感できる授業だった。最後に発表できて1つ壁を乗り越えた気がした。
- 私はディスカッションに苦手意識があったのですが、この講義でその苦手意識がなくなった気がします。
- 最初はディスカッションをすることが苦手だったか何回もディスカッションをすることでだんだん人前で話すことが苦ではなくなり、グループの中で自分の意見を伝えることができるようになった。

【コミュニケーション基礎（知能機械）】

- 社会に出て一番必要なことを教えてくれる講義なのでとても大切なものだと思う。

【コミュニケーション基礎（情報システム）】

#### ■アドバンスト・プログラム参加学生の汎用的能力の向上

アドバンスト・プログラムに参加した学生の学習時間の伸び（添付資料 3-2）や、“自己の将来”や“大学での学び”に対する考えや行動の変化（添付資料 3-3）が示されている。1 年次必修科目「キャリア形成」の発展版として、学内に留まらず学外に出て学びを深める学習者を育てている。

#### ■クラスサポーター（CS）学生の教育効果

CS にとって、CS 合宿での事前研修の場、さらには CS 活動自体が汎用的能力を高める場となっている。CS 合宿は毎年満足度の高いものとなっており（添付資料 2-2）、自分のスキルを試す場にもなっている。さらに、学習効果や進学や他の活動への参加といった行動の広がりが見られている（添付資料 2-3）。2017 年度、2018 年度卒業生である CS 経験者を追跡調査したところ、一般の学生に比べて、累積 GPA 平均や進学率が高いことが分かった（添付資料 2-4）。特に進学率は大きく差があり、全体の進学率が、5%程度と低迷している中、CS の進学率は、2017 年度で 24.0%、2018 年度で 22.4%と非常に高く推移していることは特徴的である。CS を経験すること自体が、汎用的能力を高めるだけでなく、アクションを起こすことができるようになっている。

## 5. 教育に関する受賞

教育に関する受賞は以下の通りである。

- ・平成 30 年度 九州工学教育協会 九州工学教育協会賞（添付資料 6）  
アクティブ・ラーニング型授業を活性化するクラス・サポーター育成

## 6. 授業科目に関連した教材開発

「キャリア形成」は、複数の講師が実施するため、共通の教材として「キャリア形成ワークブック」(添付資料 7-1) を作成した。授業の流れに沿って、説明部分とワークシート部分に分かれており、共通の課題がわかるようになっている。

「コミュニケーション基礎」は、共通のテキストを購入し使用することになっているが、複数の講師が実施するにあたり、教育の質を担保するために、教員用のマニュアルとして、『大学 1 年生からのコミュニケーション入門』インストラクターズマニュアル コミュニケーション基礎編 (添付資料 7-2) を作成した。このマニュアルには、15 回の授業の流れに留まらず、毎回の授業における講義内容と演習の方法 (ペアワークやディベートなど)、指導・支援において気をつけることなどをテキストに沿って作成されている。

「就業実習」の課題解決型インターンシップにおいて、ルーブリック評価表を作成した (添付資料 7-3)。これは、産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業【テーマ B】インターンシップ等の取組拡大「中長期・実践型インターンシップ推進と教育的な指導体制の構築」において開発されたものであり、課題解決のプロセスを評価できるものとなっている。

## 7. 指導力向上のための取り組み

### 7.1. 研修の受講

高等教育における教授法向上のために、主に以下のような研修を受講している。添付資料 8-1 に一覧にしている。

- ・ファカルティ・ディベロッパー養成講座 (愛媛大学) 修了
- ・ボブパイクグループ プロフェッショナルトレーナー認定プログラム  
トレーニングデリバリーにおいて、プロフェッショナルトレーナー認定

### 7.2. 学外を中心とした活動

研修会や講演会で実践例をお伝えし、その教育方法について意見交換を行い、教育改善に活かしている。添付資料 8-2 に一覧にしている。

- ・教育効果評価研究会 (2017.11.17)  
「産学協働教育プログラムの質的向上を目指して～相互フィードバックの有用性～」
- ・長期インターンシップ研究会 (2016.11.25)  
「課題解決型インターンシップと教育的な指導体制の構築」

### 7.3. 学内を中心とした活動

学内での研修会などで、教育方法やその事例をお伝えし、本学に合った教育やその教育改

善について意見交換を行い教育改善に活かしている。添付資料 8-3 に一覧にしている。

・平成 29 年度福岡工業大学短期大学部春季 FD 研修会兼中村学園大学短期大学部合同 FD 研修会 (2018.2.27)

「ループリック評価入門ーパフォーマンス評価の理解と授業での活かし方ー」

・大学間連携共同教育推進事業成果報告 (2017.7.28)

「キャリア教育における教育効果評価システムの構築について」

#### 7.4.専門分野での能力維持

・「公認心理師」の取得 (2018 年 11 月取得)

⇒2018 年にはじめて資格試験が実施された心理職で初めての国家資格 (添付資料 8-4)

・「臨床心理士」としての能力維持 (2010 年 12 月取得)

⇒学会参加や研修の参加により資格を更新。

### 8. 今後の目標

#### 8.1.短期的な目標

(就業力育成科目担当として)

「キャリア形成」のワークブックを書籍化したい。新カリキュラムが始まったため、内容をもう一度精査し、全学必修科目として学生に必要な教育を担当教員とも共有する必要がある。

インターンシップ科目である「就業実習」(新カリキュラムでは、「インターンシップ I」「インターンシップ II」)の事前事後指導、報告会の方法を見直し、今後インターンシップの参加を考える後輩たちにも見せられるような仕組みを作りたい。

(CS 育成担当として)

クラスサポーター育成における達成目標と成長を図る指標 (チェックリスト) を作り、本学におけるクラスサポーターの能力を可視化する。リーフレットを作成し、学内外にクラスサポーターの活動とその達成目標が伝わるようにしたい。

#### 8.2.長期的な目標

教育に携わる者であれば、自分で意欲的に学んでほしいと誰もが願う。しかし、学生の学習経験の中には、必ずしも成功体験ばかりではなく、やってもうまくいかないということを経験し、自分の能力を過小評価している学生も存在する。そのような学生たちを目の前にした時に、どのようなアプローチをもって学習に向かわせるかというのは、非常に頭を悩ませる問題である。能力に合わせた課題や方法、環境などが作用して、効果的な学習は作られる。分野に限らず、学び方を学習し、自分で行動していくことのできる学生を育てるた

めに、どのようなアプローチを取ったらいいのか、その方法や実践を伝えることで、教育に携わる方々のお力になれたらと思う。

そのためには、これまでの実践例をまとめて発信していく必要がある。「自分の可能性を自分で広げられる人材」を育成するためには、その周りにいる指導・支援できる大人が増えることでより広がっていくはずである。一緒に学生を育成する環境を作るための教育をしていきたい

## 9. 添付資料・参考資料

- (1) シラバス
- (2) クラスサポーター育成に関する資料
- (3) アドバンスト・プログラムに関する資料
- (4) キャリア形成に関する資料
- (5) 授業アンケート
- (6) 平成 30 年度 九州工学教育協会 九州工学教育協会賞
- (7) 教材開発に関する資料
- (8) 研修の受講修了や講演等での発表の資料